

開館25周年／ 芸劇フェスティバル

Tadashi Suzuki

鈴木忠志

スペシャル・レクチャー

日時: 2015(平成27)年12月23日(水・祝) 18:00

会場: 吉祥寺シアター 聞き手: 鴻英良(演劇批評家)

タデウシュ・カントール生誕100年記念「カントールと演劇の二十世紀」特別企画

1982年、鈴木忠志によって実現された日本最初の国際演劇祭、「利賀フェスティバル」は、その招聘作品のレベルの高さ、また多様性によって、日本の現代演劇史において、画期をなしている。このようなフェスティバルを構想し、実現させた演出家の鈴木忠志は、その当時どのようなことを考えていたのか。われわれはそのことをいま改めて知りたいと思っている。

そのときの招聘作品のなかには、ロバート・ウイリソン、メレディス・モンク、寺山修司、太田省吾とともに、今年生誕100年のタデウシュ・カントールの作品もあり、それらの作品が鈴木忠志本人の作品とともに見ることができたこのフェスティバルは壮観としかいいようがなかった。

このようなフェスティバルが実現したのは、日本を代表する世界的な演出家が、こうした世界で活躍する演出家たちと芸術的な交流していたからでもあるが、そのような交流の中で、鈴木忠志が、自らの芸術活動だけでなく、彼らの活動についてどのように考えていたのかを、われわれは知りたいたいと思うのである。そうした機会を、われわれは、カントール生誕100年にあたって企画することにより、1982年の日本の現代演劇の転換点の意味について、そしてそれがもたらしたその後の日本の現代演劇の推移について、さらには、いま演劇になが問われているのかといった問題に迫っていくために、利賀フェスティバルを構想し、実現させた劇団SCOTの演出家鈴木忠志に話していただき、21世紀に向けて演劇にかかわろうとする人たちは、今何を考え、何を目標まなければならないのかを考えていきたいと思う。

そのために、「利賀フェスティバルと世界演劇、そして日本現代演劇の展開」というテーマを軸に、演出家、鈴木忠志に存分に語っていただく機会をもうける。

利賀フェスティバルと世界演劇、

そして日本現代演劇の展開

料金: 1,000円(前売・当日とも) (全席自由)

チケット前売開始: 10月8日

チケット取扱い・お問合せ(電話予約・WEB・窓口)

東京芸術劇場ボックスオフィス

0570-010-296(休館日を除く10~19時)

<http://www.geigeki.jp/t>(PC) <http://www.geigeki.jp/i/t>(携帯)

主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

東京都/アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

共催: ポーランド文化センター 後援: ポーランド共和国大使館

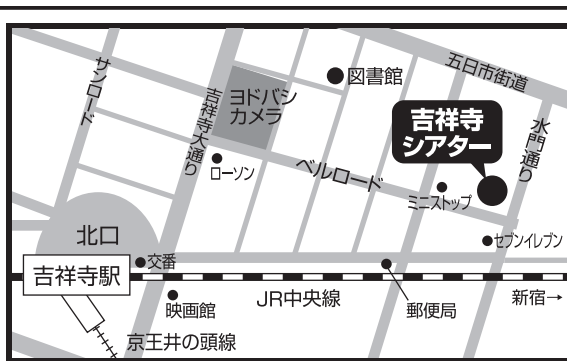
協力: **cricoteka** **劇団SCOT**

助成: 平成27年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

25th Anniversary 東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

ARTS COUNCIL TOKYO

Roots
Vol.03



ICHIOJI THEATRE
吉祥寺シアター

☎0422-22-0911 武蔵野市吉祥寺本町1-33-22
●JR中央線・京王井の頭線吉祥寺駅北口徒歩5分
<http://www.musashino-culture.or.jp>